

持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～環境教育「学校ビオトープの活用」によって育む学力と環境保全意識～

I 本研究会の概要

1964年に公害対策研究会として発足。その後、環境教育、ESDと時代を反映した研究と教育普及を実践している。低炭素社会、生物多様性社会、資源循環型社会を目指すことは持続可能な社会づくりにつながる。「持続可能な社会のづくり手の育成」として環境教育・ESDを推進し、将来世代の育成を行っていく。

研究部による研究を要とし、授業モデルの構築をするとともに、自然観察会や工場見学会等を実施している。

II 主題設定の理由

これまで東京都小中学校環境教育研究会は、人類の行き過ぎた社会活動が引き起こした環境問題に警鐘を鳴らし、持続可能な社会への改善を試みる教材化を進め、授業実践を進めてきた。例えば、気候変動に関する授業、食品ロスやプラスチックの廃棄等の問題についての授業、生産者視点での環境保全に向けた授業等である。多くの授業実践に取り組む中で、私たちの実生活では、給食の残菜、コンビニや飲食店等の食料廃棄、化学繊維を大量に利用した衣料品廃棄など、今なお様々な場面で環境への負荷をかける生活を続けている。

—今だからこそ「地球温暖化防止対策」を考えさせたい—

子供たちの多くは、様々な環境問題について学ぶ機会が増え、環境保全意識が高まってきているように思われる。一方、実生活ではペットボトル飲料やファストファッションを無意識に選択している状況にある。その現状を踏まえ、「地球温暖化」を実感している今だからこそ、地球温暖化防止に焦点を当て、授業実践を続けることで更に環境保全意識を高めていく必要がある。

これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にすると信じている。それは教育の、教師の、そして児童・生徒の変容をまさに希求するものである。

III 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成
- (2) 本研究会で作成した「新しい環境教育」で示した児童・生徒の3つの能力・態度を基に、研究部において授業開発、授業実践を行う。

地球温暖化の現状を知り、その対策がどのように行われているかを調べ、自らが生涯にわたる環境保全への継続的な意識を高めるためのモデル授業の構築を行う。

【モデル授業の構築】

学校ビオトープの活用による環境保全意識の育成

- (3) 研究発表校、研究部員所属校、外部機関、企業と連携し研究実践を深める。

【実践】研究員の所属校で授業実践

- (4) 事前・事後アンケートを活用した変容を調査

Ⅳ 研究の過程

- (1) 学校現場での ESD の推進状況の確認
- (2) 昨年度の研究成果の検証
- (3) 「ビオトープの活用」を考えるための教材、単元開発、授業構築、ESD カレンダーの作成
- (4) 研究部員の学校における授業実践
- (5) 事前・事後アンケートによる効果検証

Ⅴ 授業実践例

- 1 小学校第 5・6 学年「学校ビオトープの保全」
 - (1) 自分の学校のビオトープの現状を知る。
 - (2) 生物多様性、生態系の調査等を経て、学校ビオトープの抱える課題を見出す。
 - (3) 各自の取組と関連付けながら、探求をしていく。
 - (4) ビオトープの活用を行っている学校同士のオンライン交流授業
- 2 その他の学年：中学校第 3 学年、小学校 2 年生でも実施

Ⅵ 成果と課題

【成果】

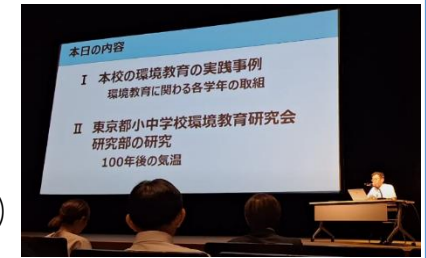
- ①自ら課題を設定し、改善策を考え、行動することを大切にしたら結果、多くの子供たちの環境への課題意識の醸成が見られた。
- ②同じ課題を共有する子供たちがオンラインを通じて交流することで、同じような課題意識をもった仲間がいることを知り、更に環境保全意識が高まった。

【課題】ビオトープの活用などの環境の改善に向けた取組は、単年度では結果が出にくい。そのため、次の学年へと引き継ぎながら持続可能なものとしてホールスクールの取組へと発展させる必要がある。

Ⅶ 本研究会のその他の活動

(1)研修会等

- ・都カーボンハーフ推進フォーラムでの発表（7月）
- ・自然観察会 8月2日 御岳山
- ・夏季研修会(東京都環境公社主催環境教育研修会) 8月8日 WEB
- ・J-POWER 先生方のためのエコXエネ体験ツアー2024 水力編(奥只見ダム) 10月26、27日
- ・野鳥観察会 多摩川
令和7年2月22日予定



東京都カーボンハーフ推進フォーラムでの様子

(2)第 60 回東京都小中学校環境教育研究発表会 (第 56 回全国小中学校環境教育研究大会と共催)

日時 令和6年12月26日 13時30分

場所 エコギャラリー新宿

講演：「EV シフトは CO2 削減の救世主になれるのか?」

講師：Touson 自動車戦略研究所代表 自動車・環境技術戦略アナリスト

愛知工業大学工学部客員教授 工学博士 藤村 俊夫 氏

<連絡先>

団体名		東京都小中学校環境教育研究会
代表者	所属	調布市立上ノ原小学校
	職 氏名	校長 箱崎 高之
	連絡先	042-485-1271
事務局	所属	世田谷区立玉堤小学校
	職 氏名	校長 伊藤 修久
	連絡先	03-3701-1536